

# AIDS UPDATE

No.15 2000.6.27

広島大学医学部附属病院

エイズ医療対策室

内線2941（輸血部副部長室）

Internet:www.aids-chushi.or.jp

☆「神様がくれたHIV」☆  
～北山翔子さんの本が出ました！～

☆ 広島県におけるエイズの現状 ☆

「HIVは主にセックスを通じて感染します。自然に恋愛をする若い世代にこそ、広まる危険性があります。特別な誰かの病気ではないのです。だから、私は自分の「ありふれた」経験を書こうと思いました。普通の和解放女性が恋愛し、HIVに感染し、それでも普通に暮らしたいと思ったとき、どのような出来事が起こるのか、ということ。」(本書より)

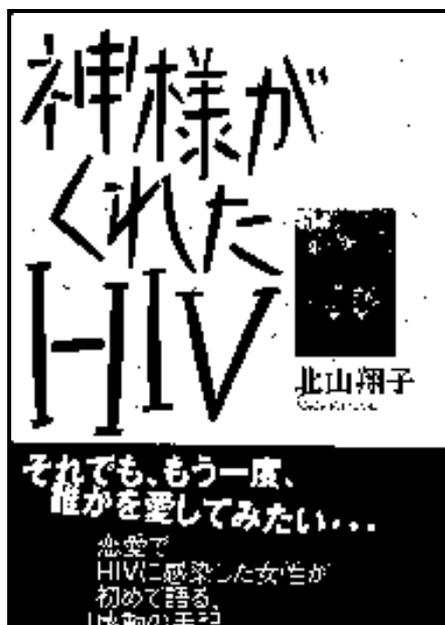
本年2月2日に本院の職員を対象にしたエイズ講演会でお話し頂いた、北山翔子さんの本が出ました。紀伊国屋書店、2000年5月29日、本体価格1600円です。医療者がHIVに感染したことに向けられた、「どうして?」という周囲の目と、支える手。保健婦としての仕事から遠ざかせようとする力と、自分の仕事への情熱。恋人への感染告知と別離。感染女性のネットワーク作りなど、色々考えさせられる話題が、淡々と書かれています。

次ページは広島県健康対策課が作った、広島県と広島市におけるエイズの経時的推移です。いわゆるエイズ予防法、感染症新法に則って届けられたもので、薬害HIVの患者さんたちを含んでいません。また、エイズ患者や感染者の転記については、必ずしも正確ではありません。すなわち感染者から発病者への"転症"や、当人の転居・帰国の場合に届け出が義務づけられていません。

中四国地方9県の人口は日本の1割であるのに、届けられたHIV感染者・エイズ患者数は1.6%です。このように、私たちが住んでいる地方は日本の中でも最もエイズの経験が少ない地方なのです。

国立大阪病院では近畿ブロックの拠点病院になった1997年4月には50人の感染者でしたが、3年後の現在は200人の感染者を抱えています。実に毎週1人の新患です。エイズ発病して発見されて紹介されるので、病棟はフル回転だそうです。

最近、広島近辺のいくつかの病院から感染者の告知や治療の相談を受けるようになりました。引き続き、私たちの病院でも準備を重ねていく必要があると思います。



<ご意見募集>

◆ 「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。コピーは自由にして頂いて構いません。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。[TAKATA, OE]

e-mail:takata@aids-chushi.or.jp